



発行責任者:歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者:広報委員長 五十嵐 武  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

## 広報委員長あいさつ

口腔微生物学教室 五十嵐 武

6月より前任(初代委員長)の佐藤裕二教授の後任として、広報委員長を拝命いたしました。現在の歯学部の広報活動は学部長と病院長のもと佐藤教授の約1年半にわたる多大な貢献のもとに成り立っており、後任としてはその責任の重さを痛感しております。

広報活動は昭和大学歯学部および歯科病院の活動状況を教職員・同窓生・父兄・学生の

みならず広く一般へもその情報を発信し、ひとりでも多くの方に昭和大学歯学部および歯科病院について知って頂くことにあります。また、この活動の継続が学生・教職員の質の向上や来院患者数の増加につながるものと考えます。

広報委員長に就任して3ヶ月になります。この間、佐藤教授のご指導のもと、まずは毎月の歯学部だよりの発行から着手してまいりました。これを通して教職員を初めとする多くの歯学部関係者が日々さまざまな分野で活発に活動されていることを再認識すると共に、それらの活動内容を通して昭和大学歯学部ならではの特色や魅力を学内のみならず、広く一般にも迅速に発信して行くことの重要性を痛感しております。

現在、広報委員会は広報委員長のもと各講座・診療科・各部署から選出された広報委員により構成され、歯学部だより(月1回)、歯科病院だより(2ヶ月に1回)の発行や歯学部および歯科病院ホームページの管理などを行っております。まだまだ不慣れではありますが、学部長、病院長、前広報委員長をはじめ皆様のお力をお借りして、今後も昭和大学歯学部をよりアピールできるように広報活動の充実を計っていきたく考えております。何卒、広報活動に対する皆様のご意見、ご感想をお寄せ頂くと共に、情報提供についてもよろしくお願い申し上げます。



## OSCE 委員長あいさつ

総合診療歯科 長谷川 篤司

6月1日付でOSCE委員長を前任の榎宏太郎教授(歯科矯正科)から引き継がせていただきました。7月23日実施のD5共用試験OSCEでは、基礎系講座の教員、臨床系講座の教授から員外助手までほぼすべての教員にご協力、ご参加をいただき、ありがとうございました。来年度から

の共用試験OSCE正式実施(必修化)を目前に控えて、病院内の協力体制を大変心強く感じております。

実り多い卒前教育として診療参加型臨床実習は不可欠です。このためには、共用試験合格=診療参加の"仮免許"取得であることを社会的に認知してもらうことが重要であり、委員会では共用試験OSCEを公正に実施することをまず第一に考えております。さらに、当委員会は角田左武郎前々委員長(口腔外科助教授)の指導下、優れたOSCE課題(共用試験OSCE課題の基礎となっている)を制作してきた強力なメンバーで構成されており、今後も、より充実したOSCE課題を開発、発信していきたいと考えております。

OSCEは、多くのマンパワーを必要とする評価法です。来年2月の正式実施に向け、学部全体でのご理解とご協力をお願いする次第です。



## 全日本歯学生総合体育大会

(夏期部門)報告

学生部長 立川 哲彦

第37回全日本歯科学学生総合体育大会の夏季大会は九州歯科大学が事務主管として、7月29日から8月12日まで開催されました。昭和大学からは13種目に参加し、硬式庭球、柔道、弓道、陸上競技、水泳の部門でポイントを得ました。冬季大会のスキーで準優勝のポイントを得たので、総合得点順位は29校中18位でした。特記すべきことは、陸上競技(100mおよび200m)で、6年の村上さんが6連覇を達成し、本大会から特別敢闘賞が授与されました。

## D5 OSCE トライアル報告

総合診療歯科 長谷川 篤司

7月23日(土)に歯学部第5学年を対象とする平成17年度OSCEトライアルが参加者223名(教員171名、教務5名、AV2名、SP26名、学外評価者18名)の協力を得て実施されました。平成18年度正式実施を控えての最終トライアルとなるため、受験生に対するフィードバックを行わないなど、正式実施を模して試験色の強いトライアルとなりました。実施準備はOSCE委員会が担当し、会場は従来の1フロア6課題から3フロアを使用した6課題(面接系1、説明系1、技能系4)3系列ストレート方式とし、フロア移動ごとに2箇所のレストを配置しました。これによって隣接するステーション同士の距離が確保され(ポストアンケートで6課題平均91%の受験生が隣のステーションの音が気にならなかったと回答)、公正に試験が実施されたと考えています。受験生たちも適度の緊張感が保てたようで、みな神妙な面持ちで受験していました。また、教育委員長の強い指導もあり、当日の欠席者は無く、受験生たちの服装、身だしなみも比較的良好でした。

## 第10回 昭和大学歯学教育者のための ワークショップ報告

ワークショップ委員長 菅沼 岳史

第10回昭和大学歯学教育者のためのワークショップは、8月18日(木)～20日(土)に三島市の東レ総合研修センターで開催されました。今回は、新しいPBLに対応した教育ということで、PBLをスムーズに導入するための新々カリキュラムのあり方を考えるアドバンスコースとPBLを体験するピグナーコースとの2つに分かれて行いました。参加者は、教育委員長、前教育委員長、PBL・WS運営委員17名、各講座から15名、教務課4名、4大学交流参加者4名で、招待タスクホースとして東京女子医科大学の吉岡俊正教授と本学医学部の高木 康教授をお招きしました。また、理事長、学長、学部長、病院長の各先生方にもお忙しい中参加して頂きました。

初日は、昭和大学歯学部のことからの方向性、カリキュラムの現状と方向性、既にPBLを導入している東京女子医科大学、アデレード大学のカリキュラム、北海道医療大学、岩手医科大学、福岡歯科大学および本学のPBLの現状についての講演と現行新カリキュラムの問題点についての討論が行われました。2日目からは、アドバンスコースとピグナーコースに分かれ、アドバンスコースでは、PBLの導入を考慮した新々カリキュラムの案とそれを見据えたPBLのシナリオについて討論し、ピグナーコースでは、PBLへの理解を深めるためにPBLのシナリオの作成とその体験をして頂きました。アドバンスコースでは、途中討論が白熱し、司会の不手際もありうまくまとめることができませんでしたが、ここで出して頂いた意見をできるだけ新々カリキュラムに反映することができるように検討したいと思います。また、ピグナーコースに参加して頂いた先生方には、PBLの普及、発展にご協力頂ければ幸いです。

委員長として初めて参加したワークショップでしたが、時間配分や進行に不手際があり、ご迷惑をおかけしたことをこの場をお借りしてお詫び申し上げます。



## 第1回歯学部進学相談会報告

入試広報委員長 山田 庄司

第1回昭和大学歯学部進学相談会(歯科病院見学)が7月30日(土)に、北千束の歯科病院で行なわれました。相談会は第2臨床講堂にて、午後1時から学部長の挨拶に続き、歯学部教育の特色、卒後の進路、教養部での学生生活、入学試験について約1時間にわたって説明した後、7グループに分かれて歯科病院内を約1時間見学しました。見学終了後、第1、第2臨床講堂に分かれて個別相談が

行なわれました。

参加学生は94名(父兄含め約140名)で、昨年の第1回歯学部進学相談会よりも14名増加しました。参加学生の内、同窓生のご子息は17名で編入生は6名でした。また、アンケートに推薦入試受験予定と記入した学生も昨年の29名から45名(内指定校10名)に増加しました。これは歯学部の教育改革、高い国家試験合格率および広報活動の成果が現われてきたものと思われます。

今後、第2回昭和大学歯学部進学相談会(歯科病院見学)を8月27日(土)の夏休み期間中(昨年は9月)に行う予定です。また、今年度は第3回昭和大学歯学部進学相談会(模擬授業)を9月23日(金)の秋分の日(旗の台)で行う予定です。

## D6選択実習の実施

教育委員長 佐藤 裕二

臨床実習を終了した学生を対象にして、さらに高度で包括的な診療に参加して、広く歯科医療を理解することを目的として8月1日から6年次に選択実習を実施しました。学内外・海外の教育研究施設での研修も可能であり、そこでは視野の広い歯科医師を育成することを目的とします。選択した歯科病院内の専門科で、臨床実習では時間的に無理であった実習を行い、将来の進路を考えるきっかけにもなります。また、研究にもタッチすることで、歯科医学の奥深さを理解することも可能です。本年度は任意であり、8月1日～20日(夏休み3週中)のうち1週間を返上して学習したいという意欲的な学生を募集したところ、20名の希望者がありました(学内10名、学外10名)。受け入れ施設と調整を行ったところ、10名が学内(顎関節症科、美容歯科、麻酔科、口腔衛生)、8名が学外(施設、開業医、北部病院、技工所)となりました。学外の某大学では受け入れ規定がないため実施できなかったところもあり、今後の問題点です。詳細につきましては学生の感想なども含めて次号で報告させていただきます。来年度からは必修になり、春に8週間行う予定です。

## 臨床研修医説明会

総合診療歯科 長谷川 篤司

平成18年度の歯科医師臨床研修必修化に向けて、歯科病院の臨床研修説明会に多くの希望者が参加しました。まず、6月18日(土)に本学在生を対象とした第1回臨床研修説明会(大学院歯学研究課程説明会と共催)には71名が参加し、次いで7月29日(金)の第2回臨床研修説明会には278名(本学在生20名、本学既卒者19名、他大学在生173名、他大学既卒者105名)が参加しました。第2回は平日にも拘らず、歯科病院第1・第2臨床講堂が2講堂とも満員となり、後方に固定座席の確保ができなかった参加者も散見されました。まず、佐藤裕二教授(教育委員長・大学院運営副委員長)が全員を対象に大学院歯学研究課程について説明(第2臨床講堂ではライブ画像で放映)し、その後、参加者を半数ずつに分けて長谷川科長(総合診療歯科)による平成18年度臨床研修の説明会と、管理課職員による歯科病院内見学を実施しました。研修医選考は10月8日、10月29日の2回実施しますが、必修化にともなうマッチング制度導入を考慮すると定員100名に対して、300名あるいはそれ以上の人数が志願する可能性が見込まれています。

## 私の留学生活

呉 健 先生



私は日本に留学する前は、中国山東省済南市の歯科病院で歯科医師として勤務しておりました。当時、済南市は人口575万人の都市で、歯科専門の病院はたった1つしかありませんでした。私は毎日多くの患者さんの診療におわれ、とても忙しい臨床生活を送っていました。そのような毎日の生活に疑問を感じ、一大決心をして、最新の歯科技術、特に審美歯科の技術を学ぶため、昭和歯学部保存修復教室に自費留学することにしました。

昭和大学歯学部では久光教授の傍で診療を見学させていただいたり、学生の基礎実習に参加したりして、毎日優れた技術を指導していただきました。そのうち私は、中国の歯科臨床で頻りに遭遇したいろいろな解決困難な問題が、日本では簡単に解決して、綺麗に修復ができてしまうことに感動し、日本の歯科材料の発展と歯科技術の向上が見事に融和し、臨床に生かされていることに感動しました。そこで歯科材料の研究に取り組むことを決意しました。歯学部の大学院入学試験に合格し、4年間の研究生活が始まりました。

研究テーマは接着性コンポジットレジン象牙質窩壁に対する接着性に関する研究でした。この研究は私にとって、すべて新鮮でした。研究指導の伊藤和雄助教授が文献の読み方から、実験方法、研究発表、論文作成など、私を研究の道に導いて下さいました。教室の先生たちが抄読会の文献選択から、実験結果の分析、学会発表前の日本語の発音訓練、論文の審査員の質問に対しての答え方など、親切に指導してくれました。国際交流センター、教務の方々が奨学金の申請のみならず、日常生活まで幅広く暖かく応援してくれました。4年間の大学院生活では、とても充実した毎を送る事が出来ました。

私の中国での大学生の時代には、歯科材料学の専門教科書がなく、歯科材料学については補綴学の教科書の中でわずか一章しか紹介されていませんでした。私は大学時代から歯科の勉強の中で歯科材料学が一番不足していると感じていました。昨年、外国人研修生として採用され、歯科理工学教室で藤島先生の元で、フロアブルレジンに関する研究をするチャンスを得ることが出来ました。研究をしながら、宮崎教授と教室の先生たちの講義を聞き、歯科材料学全般の最新知識を勉強することが出来ました。藤島先生は歯科材料に関する実験方法を基礎から丁寧に教えて下さいました。私にとって、計り知れない大きな収穫が得られたものと感謝しております。

私は留学生活の楽しみが学問の勉強だけでなく、日本語を勉強して日本の文化と社会に直接触れることによって理解を深めることも大切だと思いました。日本語の新聞、雑誌を読んだり、お花見、お祭りを見に行ったり、日本料理を作ったり、近所のお年寄りからお話を聞いたりしました。日本語を学ぶ事によって、新しい世界が広がりました。沢山の日本人のお友達ができました。物の考え方や見方も

変わってきました。時々私は、自分が日本人よりも日本人であるかのような気分になりました。そのうち私の日本語も上達し、昨年日本語能力試験の1級に合格することができました。

日本の留学生活は、私の人生を豊かにしてくれました。中国に帰って、昭和大学で習得した知識や技術を活かして、中国の歯科医療の向上と発展に努め、日中両国間の歯科医学の交流を深め、さらに両国の友好のために貢献して参りたいと思っています。これから精一杯頑張っていくという熱い思いと希望に満ちた気持ちを胸に抱いて昭和大学での留学生活に幕を閉じます。

最後にこの場をお借りして、お世話になった先生方、そしてお世話になった人々に再び衷心よりお礼申し上げます。

## 日本歯科医学教育学会報告

小児育成歯科 浅里 仁

7月7日、8日の両日、徳島大学にて第24回日本歯科医学教育学会が開催されました。本学からは、宮崎学部長、佐藤教育委員長、岡野教授、向井教授、山田教授、久光教授をはじめ19名の教員が参加し、道脇・島田・片岡・天野・弘中・中島・堀田・伊佐津・杉山の各先生と浅里の10名が発表いたしました。他大学の新しいカリキュラムや教育方略についての発表も多くあり、全国の歯科大での新しい教育に対する真剣な取組みに感動さえ覚えました。本学でも三島のワークショップをはじめ、複数の教育プロジェクトが進行しております。新新カリキュラムに向け、多くの先生方と連携してより良い教育を実践する勇気を与えてくれた学会でした。

## 日本歯科放射線学会第200回関東地方会記念大会報告

歯科放射線学教室 松田 幸子

上記の学会が平成17年7月16日(土)午後12時45分より、昭和大学4号館600号教室にて開催されました。学会参加者は119名、一般口演はコーンビームなどのCT装置や画像処理関係の演題と、顎関節症や腫瘍などの臨床関連の演題で計13題が発表されました。なお関東地方会は第1回が1960年1月に開催されて以来、本会が200回にあたるため、その記念大会となりました。

セレモニーとして昭和大学 Medical All Stars (MAS)による演奏があり、記念講演として東海大学医学部放射線科の高原太郎先生による「MRI 自由自在」と医歯大名誉教授の佐々木武仁先生による「X線画像検査の最近の動向と放射線被曝のリスクの考え方」が行われました。

MASの演奏では学会の最中とは思えないような楽しいひとときを過ごすことができました。高原先生によるMRIの講演ではMRI検査の基本的な理論と基礎知識にはじまり、T1、T2などの難解な信号強度についてわかりやすく説明していただきました。佐々木先生による放射線被曝のリスクの講演では、先年イギリスで発表された日本のX線検査の量が他の国と比べて多いという記事を参考に、被曝リスクという考え方について興味深い内容を紹介していただきました。記念講演のあと昭和大学病院中央棟7階のカフェテリア「マ・メゾン」で懇親会が行われ、講演された先生方をまじえて和やかな歓談が行われました。

なお、本会は昭和大学学会等開催補助金からの補助を受けました。

## Daz からの便り

前教育委員長 岡野 友宏



Dharamveer Singh (Daz) と Antonia Hawthorne さんはリバプール大学歯学部  
の学生で、4年次終了時の  
選択学習 (elective) として、  
2004年8月の3週間ほど  
昭和大学歯科病院に滞在し、  
久光教授・東光講師・  
星野助手の指導の下で研  
修を受けました。その成果  
は "Tooth whitening ,  
shouldn't we be learning

about it" としてリバプール大学内にて発表されました。滞  
在中、Antonia には急病で入院するなどというハプニングが  
ありましたが、その節には国際交流センターおよび昭和大学  
病院の方々に大変、お世話になりました。兩人ともに本年7月  
にリバプール大学歯学部を卒業し、歯科医師としての  
一歩を歩みだしたとのこと。

Greetings!

Dharamveer Singh

I start work on 1st August working in what is known  
as a vocational training scheme. We work for 1 year in  
a General Dental Practice under the guidance of the  
principal dentist of the practice and for 1 day a week we  
will attend a course relating to any aspect of dentistry.

The elective course is designed for additional study  
for students studying Dentistry & Medicine. It gives  
the opportunity to students to research topics of interest  
for themselves. This may involve traveling abroad or  
home-based study. The study can be of any topic but  
must have a scientific basis. The choice of topic is  
thus not only limited to the Dental and Medical interests  
but also any suitable topic. Once the period of study  
is completed, a write-up is required on the research  
completed on the topic of choice. The written pieces  
are then evaluated and then some projects are then  
chosen for presentation to staff and students. Awards  
are presented for the best elective and best  
presentation. This period is a great deal of fun  
primarily because we are allowed to study abroad and  
to experience different methods and cultures, and it  
thus provides a valuable educational tool through our  
undergraduate life. Showa University is everything  
we had hoped it would be for our elective and more.  
Tokyo as a city is immense and I am grateful to have  
had the opportunity to experience both. To say that  
we had fun while we were at Showa is an  
understatement, the activities that were laid down  
were awesome. I will never forget the staff and the  
students were all very special, because everyone had  
made us feel very welcome and very hospitable to us  
when we needed it most. On the whole the elective  
period we spent in Tokyo was amazing and an  
experience I'm not likely to forget in a hurry! I would  
like to come back to Japan again.

## 行事予定

広報委員長 五十嵐 武

- 9月23日(祝) : 歯学部オープンキャンパス (旗の台キャンパス)
- 10月1日(土) : 大学院歯学研究科進学試験 (旗の台キャンパス)
- 10月3-7日 : 歯学部1年生早期体験実習 (甲府市内各施設)

## 昭和大学公開講座(9月)のお知らせ

広報委員長 五十嵐 武

- ・第32回 旗の台公開講座  
日時:平成17年9月10日(土), 14:30分~16:00  
場所:昭和大学旗の台校舎4号館6階600号室  
(第二講演)  
演題:[砂糖とむし歯菌について]  
講師:昭和大学歯学部教授(口腔微生物学)五十嵐 武

## 学会開催のお知らせ

広報委員長 五十嵐 武

- ・向井 美恵 大会長(口腔衛生学講座教授)  
第54回日本口腔衛生学会・総会  
2005年10月6, 7, 8日  
品川区立総合区民会館「きゅりあん」

## 昇任・人事

広報委員長 五十嵐 武

- ・大峽 淳(歯周病学)  
平成17年度7月1日より講師に昇任
- ・阿部 淳子(歯科麻酔学)  
平成17年8月1日より員外助手に昇任

## 診療統計

	患者数	1日平均	前月1日 平均	前年1日 平均
外来患者	17,53	762.4	745.8	750.2
入院患者	346	11.2	13.3	16.9

平成17年7月分

## 編集後記

広報委員(歯科放射線学教室) 松田 幸子

歯学部便り8月号をお届けします。夏休みということもあ  
って、原稿の集まりに不安を感じておりましたが、無事に印  
刷できる運びとなりました。原稿をお書きいただいた先生  
方には厚く御礼申し上げます。歯学部が今何をして、どの  
ように動こうとしているのかをこれをご覧いただき、ご理解  
いただけたら何よりです。編集の経験のないものが、仕事  
の合間にこの作業を行っており、不十分な点があると思  
いますがご容赦ながいいます。先々の掲載内容までプラン  
ニングを考える広報委員長の五十嵐先生もかなり大変かと思  
います。今後も昭和大学歯学部の活動としてアピールした  
ほうがよいと思われることがございましたら、広報委員ま  
でぜひご一報ください。よろしくお願いいたします。